

夏季異常高温年における白未熟粒の発生解析

福島県農業総合センター 作物園芸部稲作科

1 部門名

水稻—水稻—気象災害、品質・食味

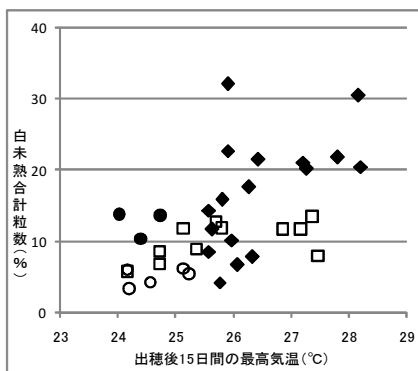
2 担当者

藤田智博・藤村恵人

3 要旨

平成22年は夏季異常高温で乳白粒等が混入し県内で米検査等級が低下した。そこで、作柄判定ほの玄米を調査(kett RN-300)し、県内の発生状況とその要因について検討した。

- (1) 白未熟粒(乳白、基部、腹白・背白)発生率はコシヒカリで高い。
- (2) コシヒカリは出穂後15日間の最高気温が高いと白未熟粒の発生率が高い。
- (3) 白未熟粒の発生は会津で乳白、心白が多く、浜(相馬、浪江)で腹白の発生が多い。
- (4) 基部未熟粒と腹白粒は気温の上昇にともない発生率が高いが、乳白粒はバラツキがあり、高温以外にも発生を助長した要因があると考えられる。



方部	粒数(%)		
	乳白 心白	腹白	基部 未熟
中通り	7.7	5.6	1.4
会津	16.5	7.2	1.9
浜通り	6.3	8.9	1.7
(相馬、浪江)	(8.1)	(11.4)	(2.1)

図1 白未熟粒発生と出穂後の最高気温※○:あきたこまち、●:チヨニシキ、◆:コシヒカリ、□:ひとめぼれ

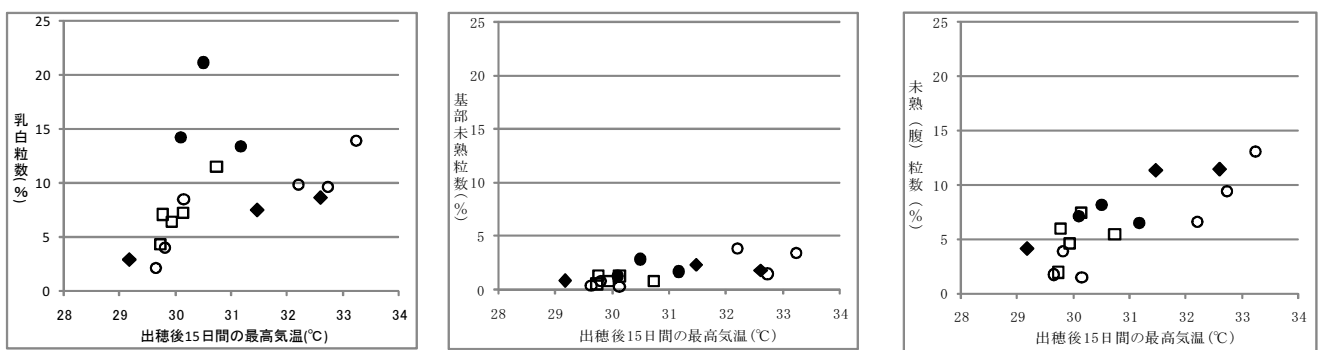


図2 コシヒカリの出穂後の最高気温と白未熟粒発生率※○:県北、□:県中・県南、●:会津、◆:浜通り

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成22年度センター試験成績概要
- (2) 東北地方1kmメッシュ気温データ表示—検索システム(東北農研)